

令和2年度 課題研究 実践レポート

選択項目	①実態把握 ②授業計画 ③教材教具 ④授業展開 ⑤学習評価 ⑥情報提供				
実践名	農業に関わる技術、知識について生徒が理解しやすいように配慮したワークシートの開発	所 属	農業科1年（副担任）		
		職・氏名	教諭・和田 繁夫		

1 実践の概要

作業学習の中で、農業に関わる様々技術について教えてきた。冬場の屋外での作業が少なる時期に「技術」の裏付けとなる「知識」について教えることを目的に授業を行い、その際、どのような工夫が有効であるか検証した。

2 実践の内容

1月に入り、週3回ある作業学習の中で毎週木曜日を座学の時間と設定した。農業科1年の教室にてプリント学習を主体に行った。黒板を使って板書の内容をノートに書き写させる方法では、教師が板書する時間と生徒が書き写す時間がかかり、授業時間が長くなることが予想された。さらに生徒にとっては、授業の見通しがつからないことからプリント（図1）を使用した授業形態にした。また、板書の代わりにパワーポイント（図2）を用いてテンポよく進められるように心掛けた。

座学の内容としては、農業高校で使われている「農業と環境」、「野菜」の教科書の内容より、作業内容に適したものを抜粋した。ただし、専門用語はできるだけ使わず、日常生活で使われている言葉に置き換えて解説した（例：かん水を水やりに置き換えるなど）。



図1 学習プリント

③現在の生産状況（平成30年度）

都道府県別トップ5を表にすると以下の通りになります。

順位	都道府県名	生産量（t）	栽培面積（ha）
第1位	北海道	717,700	14,700
第2位	佐賀県	118,100	2,430
第3位	兵庫県	96,400	1,700
第4位	長崎県	29,200	840
第5位	愛知県	27,600	573

図2 パワーポイント画面（一部）

3 実践の振り返り（今後の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて）

(1) 生徒の反応

あまりこのような形式の授業に慣れていないためか、最初は反応が小さかった。しかし、一方通行の講義形式にしないためにも、クイズ形式のように空欄に当てはまる語句を考えさせて答えさせていった。この方法であると時間はかかるが、生徒の反応は良くプリントへの記入状況も良好であった。ただし、内容によって生徒の関心が高い部分と低い部分に分かれ、今後の座学に関しては内容

の選定に留意して、教え方も工夫する必要があると考えられた。

(2) 今後の座学の授業について

作業量の多い夏場に座学を行うことはなかなか難しいが、逆に少なくなる冬場にこうした形で生徒に座学を行うことは有意義であると考えられる。作業時にも作業内容の説明とともに、「なぜこのような作業を行うのか、意義は何か」ということも伝えることはあるが、時間がないためなかなか掘り下げた話はできていないのが現状である。生徒が作業の意義を理解してから取り組めるようになれば、卒業後に就労先で円滑に仕事に取り組めるようにと考えられる。生徒がもつ特性は毎年変化するため、授業内容についてはPDCA サイクルを用いて変更しながら進めていく必要がある。今年度の座学の授業を基準として、更なる改良を加えていきたいと思う。

令和2年度 課題研究 実践レポート

選択項目	①実態把握 ②授業計画 ③教材教具 ④授業展開 ⑤学習評価 ⑥情報提供				
実践名	窯業作業での自主的・対話的な学びにつなげる支援の工夫	所 属	窯業科		
		職・氏名	実習助手・穴田 祐美		

1 実践の概要

「より作り」は、窯業作業の中でも難易度の高い製品のひとつであり、総合的に高度な技術が必要とされる。一つ一つの工程において、指先の力加減、道具の使い方など、習得しなければならない技術や留意点がある。生徒の中には、自分の記憶に自信があるからとメモを取らずに、結局何度も同じことを確認したり、各工程において、意味合いが分からないまま進めることで同じ失敗を繰り返したりするなど、与えられた仕事によっては、責任をもって最後までやり遂げることが苦手な生徒がいる。

「より作り」は、工程も多く複雑であるため、取り組みの初期段階として、教師や実習助手の見本を示した後は、視覚を重視した「より作り工程表」(図1)を用いることにより、すぐに教師へ確認するのではなく、記憶が曖昧な所を自分で振り返って確認できるように作業が進められる(図2)と考え、今回作成した。

また、焼成では、窯に入れる位置によって温度に差があるため(図3)、焼き上がりを見ると、温度が不足し釉薬が溶けきれずにざらつきが出る、逆に温度が高すぎて亀裂が入るなど、釉薬によって適正な温度があるということも、これまでの焼成の経験から生徒たち自身は学習してきている。現在70種類ほどある釉薬の特性を、表を見て窯詰めすることで、生徒たち自らが考えて、焼成の失敗をなるべく防ぐことができるよう「焼成適正温度表」(図4)も作成した。

2 実践の内容

「より作り工程表」には、ある程度の手順が示してあるが、成形途中で新たに取り入れた方がよい工程やより具体的に注意すべき部分などを自分で追記するようにし、自分なりの工程表を作り上げていくようにした。特に、メモが苦手な生徒や指示を受けないと自信がなくなかなか次の作業に進めない生徒にとっては、効果的であった。また、同じ「より作り」をするグループの仲間同士でも「ここってどうやるんでしたっけ？」など技術的な内容の確認や仕上がりを確認し合うなど、互いに助け合い、連携する場面も増えてきている。



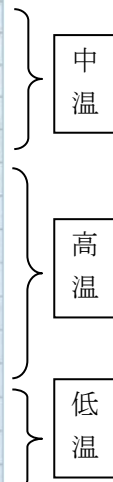
図1 「より作り工程表」ラミネートつづり



図2



図3 電気窯 焼成時の温度の傾向



釉薬適正温度表

No.	名 前	単位	焼成温度	No.	名 前	単位	焼成温度
40	白磁(白磁)	札	1180~1220	3	黒天目	札	1230~1250
47	ガラスヒョウ	札	1180~1220	4	浅水乳濁	新	1230~1250
9	ベルシャブルー	新	1180~1220	5	黄瀬戸	札	1230~1250
30	トルコ青マット	札	1180~1220	6	白磁(黒灰)	札	1230~1250
58	酸化オフケ	札	1180~1230	7	ソノバ	札	1230~1250
67	黒磁部	札	1180~1240	8	乳濁灰	新	1230~1250
1	透明釉	札	1180~1250	12	鉄赤	新	1230~1250
54	透明釉(黒石ブレンド)	札	1180~1250	13	磁部	札	1230~1250
63	透明釉(マグネサイト)	札	1180~1250	14	黒灰白磁	新	1230~1250
60	緑磁部	札	1180~1260	15	紺髪手斑点窯変	新	1230~1250
18	油滴天目	新	1200~1230	17	白マット	札	1230~1250
35	白天目	新	1200~1230	19	石炭系白磁	札	1230~1250
53	なまこ(丸二)	札	1200~1230	20	石炭系唐津	札	1230~1250
69	月白	札	1200~1230	21	ナマコ	札	1230~1250
10	マロシ	新	1200~1250	22	ルリ	新	1230~1250
11	ふじ	新	1200~1250	23	ルリ	新	1230~1250
16	桜花	新	1200~1250	24	青磁	新	1230~1250
65	赤嵐(マロン系)	新	1200~1250	25	青磁	札	1230~1250
28	濃黒	新	1200~1250	26	青磁K	新	1230~1250
32	バイオレット	新	1200~1250	27	ルリナマコ	札	1230~1250
36	オレンジ	新	1200~1250	28	新黄入乳白	札	1230~1250
37	濃赤エナメルカラー	札	1200~1250	50	黒マット	札	1230~1250
39	新黄入乳白	新	1200~1250	57	黒マット	札	1230~1250
40	新黄入乳白	新	1200~1250	59	黒灰系唐津	札	1230~1250
41	新黄入乳白	新	1200~1250	61	火炎紅	札	1230~1250
42	うのふ	新	1200~1250	62	粉紅	札	1230~1250
56	桜桃色	新	1200~1250	64	清釉	札	1230~1250
51	スカイブルー	札	1220~1230	66	黒釉	札	1230~1250
52	メタリック	札	1220~1240	70	新黄瀬戸	札	1230~1250
2	黄	新	1220~1240	43	ベージュマット	札	1230~1250
30	茶黒青磁	新	1220~1240	48	均濁	札	1230~1250
31	金そば	新	1220~1240	44	カナリア黄	札	1230~1280
33	緑色	新	1220~1240	45	ルリなまこ	新	1230~1280
34	黄緑ガラス	新	1220~1240	49	カオリンマット	札	1230~1280
				50	透明マット	札	1230~1280

図4 釉薬適正温度表

3 実践の振り返り（今後の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて）

それぞれの能力には差があり、同じ進捗で進められないケースがほとんどだが、今回の工程表を活用することで、自分でよく考えて、主体的に仕事へ向き合う姿が見られた。見通しをもちにくく、集中力が持続しない生徒にとっても効果的であった。慣れてくると工夫もできるようになり、効率の良さも出てきた。

対話的な面では、同じ製品を成形する仲間や先輩とのやりとりも生まれた。工程表を見ながら「よりの接合がうまくいかないときはどうしたらよいか。」「この場面ではコテをどうやって当てるとよいか。」など、技術的な部分を見せてもらったり、逆に自分の成形場面を見てもらって助言を受けたりして、「より作り」を通してコミュニケーションをとることが増えた。

また、釉薬の適正温度を掲示することで、ただ闇雲に入れていくのではなく、自主的に釉薬の適正な焼成温度を確認し、なるべく良い焼き上がりになるよう窯入れの仕方にも工夫が見られるようになってきている（図5）。

今後も成形作業から完成までの一連の作業を通して、与えられた仕事を選ばずに、まずはやってみる、努力し続ける、仕事に慣れてきたら工夫する、適切な人との関わり方を習得していくという視点を大切に支援していきたいと考える。



図5

令和2年度 課題研究 実践レポート

選択項目	①実態把握 ②授業計画 ③教材教具 ④授業展開 ⑤学習評価 ⑥情報提供			
実践名	パワーポイント（PPT）、プリント作成の工夫について	所 属	農業科2年（担任）	
		職・氏名	教諭・工藤 大地	

1 実践の概要

PPT、プリントを作成するに当たっては、学級や学年で授業を行う際は、生徒の実態を考慮して作成しなければならない。漢字の読みが苦手な生徒、質問の意味が分からずなかなか意見が書くことが難しい生徒、たくさん意見を書いても質問の意味を正しく理解せずに書いてしまう生徒など、様々な生徒が在籍している。そのため、プリントだけを使って理解を促すのではなく、PPTを活用し、写真やアニメーションを付けて説明することで、何について質問されているのか、どのように記入しなければならないのかを理解して活動できるのではないかと考えた。

2 実践の内容

プリントの作成に当たっては、難しい漢字を使わず、質問内容も長文にならないようにした。どうしても画数の多い漢字を使うときはルビを入れるようにし、難しい言葉を入れたときは、プリントの余白に意味を入れたことで、混乱を減らすことができた。さらに、なかなか自分の意見がまとめられない生徒にとっては、記入例を入れることで、答え方、考え方のイメージをよりもたせることができた。しかし、記入例を入れることは既に解答を提示しているようなもので、記入例をなくすと書くことが難しいことが多かった。

そのため、PPTでは質問について考えることが難しい生徒でも、自分で考える力を身に付けられるように、まず何から考えなければならないか、考え方の順番を提示した。大事な部分には色付けをする他にアニメーションを付けて強調することで、考えるためのヒントとなった。また、PPTの一番の利点は、写真を使つての説明をすることができる点で、プリントのみの説明よりも、質問の意味や手順を早めに理解して取り組めることが多かった。生徒は画面を見て何度も手順や注意点を確認でき、分からない生徒は、教師が画面を使って何度でも説明できるので、最初から一つ一つ説明する負担を減らすことができる。

学校祭の作文を書こう！

① 劇^{げき}台本^{わた}を渡されたときどう思った？
 (例) 緊張^{きんちやう}した。やる気が出てきた…など

② 配役が決まったときどう思った？
 (例) できるか不安。
 演じ切ろうと思った…など

③ 練習のときに頑張ったことは？
 (例) セリフに感情^{かんじよう}を込める。大きな声で言う
 役になりきる…など

④ 本番当日は？
 (例) 練習したことを出し切ろうと思った。
 緊張した。
 家族に練習したことを見せることができた。
 終わって、ほっとした。

(実際に使用した PPT)

3 実践の振り返り（今後の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて）

今回の実践で、プリントと PPT の両方を使うことで、口頭みの説明よりも、より時間をかけずに理解して実践できることができた。また、自力で解答したり、発表したりすることができた自信から、もう少し考えて書いてみよう、発表してみようという意欲が見られた。一方で、どちらを使っても、問題や質問の意味を理解するまでには時間が必要であった。主体的・対話的な深い学びにつなげるためには、現状の取り組み方では、支援が多すぎると考える。今後は疑問に思ったことについては、自ら質問し解決できるような状況を作って、まずは学級から練習する機会を多く設定し慣れてきたら、学年の授業で実践を繰り返しながら、支援の機会を少なくしていくことが必要だと考える。また、授業のみではなく、学校生活全体を通して継続していくことも大事だと感じた。

令和2年度 課題研究 実践レポート

選択項目	①実態把握 ②授業計画 ③教材教具 ④授業展開 ⑤学習評価 ⑥情報提供		
実践名	生活単元学習における話し合い活動の充実	所 属	家庭総合科2年（担任）
		職・氏名	教諭・佐野 涼司

1 実践の概要

本学年の生徒は、日常生活での会話はおおむね問題なくできる生徒が多い反面、話し合いや自分の意見を発表する場面では、消極的になる生徒が多い。また、話し合い活動で積極的に発表することができる生徒でも、自分の主張が多く、他者の考えを聞いて肯定的に捉えることが難しい生徒が多い。以上のような生徒の実態から、今回の実践では、生活単元学習「心とからだの学習④」において、ネットトラブルや性に関する事例から、自分の考えをワークシートに記入し、他者と交流する活動を行った。

2 実践の内容

2学年生活単元学習「心とからだの学習④」では、SNSを中心としたネットトラブル、性被害について取り扱った。ネットトラブルに関する授業では、今後直面する可能性があるトラブルについて事例を3つ提示して、トラブルの回避方法、対処方法などについてワークシートに記述させ、交流を行った。その際、「相手の意見を否定しない」ことなどを、約束として確認することで、他者の意見を肯定的に受け止め、自分と違う考え聞き、ワークシートに記入することができた。しかし、自分の考えに自信がなく、うまく表現できない生徒や、経験不足などから具体的にイメージすることが難しい生徒も多いと改めて感じた。

3 実践の振り返り（今後の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて）

本学年では、入学時から KJ 法などを用いて話し合い活動を行ってきた。他教科や生活単元学習の他単元でも自分の考えや感想を記入する活動に取り組んでいることから、積極的とは言えないものの現在は入学時に比べて、自分の考えを書いたり伝えたりすることができるようになってきた。また、これまでは、自分の意見を押し通そうとする生徒が散見されたが、ルールを設定することやどんな小さなことでも自分の意見としてもっていいことを伝えることで、少しずつではあるが自分の意見を持ち、小さい集団であれば相手に伝えることができるようになったと感じる。

今後は、卒業後の仕事や生活を具体的にイメージし、目標をもち、課題の改善に向けてどのように取り組んでいくかなど、積極的に学習に取り組むことができるような題材設定、教材の工夫に継続して取り組んでいくことが必要と考える。

令和２年度 課題研究 実践レポート

選択項目	①実態把握 ②授業計画 ③教材教具 ④授業展開 ⑤学習評価 ⑥情報提供		
実践名	キャリア・パスポートの活用について	所 属	2 学年（学年付）
		職・氏名	教諭・祐川建一郎

1 実践の概要

新学習指導要領総則において、生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」について明示された。また、同特別活動においては、「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う」際に、生徒が「活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」とされたところである。

キャリア教育を推進するにあたり、「特別活動を要としつつ」と「活動を記録し蓄積する教材等の活用」が明記されていることから、文部科学省において「キャリア・パスポート」の例示資料及び指導上の留意事項について取りまとめたものが出された。

「キャリア・パスポート」の目的については、「小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐもの。教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。」と整理されている。定義については、「『キャリア・パスポート』とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ（評価ツール）のことである。なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。」と整理されている。

「キャリア・パスポート」については、進路指導部としてキャリア教育を進めていく中で、指導に生かせるツールはないか探っていたときに存在を知った。「キャリア・パスポート」は、特別活動のホームルーム活動を中心に活用をするツールであることから、ホームルーム担任等に活用をお願いする必要がある。自分自身がホームルーム担任であった場合、「キャリア・パスポート」をぜひ活用したいと考えた。そのため、進路指導部としてよりも個人として内容をカスタマイズした部分が多い。進路指導部に所属していることから、キャリア教育の視点が大前提にある中での個人でのカスタマイズを心掛けた。

この「キャリア・パスポート」を、本校で活用できるようカスタマイズし活用することで、自己理解や障がい認知にもつながり、キャリア形成する上でのツールになるのではないかと考えた。

2 実践の内容

まずは、文部科学省から示された「キャリア・パスポート」を、本校で活用できるようにカスタマイズを行った。卒業までに身につけてほしい力やキャリア・パスポートを作成するねらい・期待すること、生徒たちへのメッセージについては、学校の教育目標を踏まえ、本校で行っているキャリアに関する取り組みを簡潔に文章化し、生徒へ伝えたい内容を盛り込んだ。シートについては、

自己理解を深めた上で記録を蓄積していくことができるよう、「自分史を書いて自己分析する」、「これまでの自分を振り返る」、「自分のことを客観的に知る」を新たに設けた。内容については、これまで生活単元学習や総合的な学習の時間などで取り組んできた中身も盛り込んだ。また、これまであまり深掘りしてこなかった自分自身の「特徴」を改めて知る機会となるよう、具体的に記載できる内容を盛り込んだ。過去の自分があるから今の自分があることについて考えるきっかけとなり、繰り返し記録し蓄積することで振り返る習慣や見通す力が身に付き、自己のキャリア形成に必要な主体的に学びに向かう力や、自己実現につながるなど、自身の変容や成長を自己評価できることにつながるのではないかと考えた。

学年部会でキャリア・パスポートの活用について口頭で打診し、その後ホームルーム担任に配布、各ホームルームでの活用をお願いした。

活用については、これからになるため、活用後の成果や課題については、後日改めて報告させていただく。

3 実践の振り返り（今後の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて）

現場実習の振り返りを行った後、あまり期間を空けずにキャリア・パスポートを活用することで、目的にある「生徒にとって、自らの学習状況やキャリア形成を見通りしたり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。」として、まさに進路の方向性について業種や生活の場について自らのこととして考えられるタイミングになったのではないかと考える。また、教師にとっては、定義にある「教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養う」として、進路面談を行ったりする中で、生徒の強みや努力が必要なことについて、評価表やキャリア形成する上で見返しながら進路の方向性について具体的に話をすることができ、自己理解にもつなげるきっかけとなってくるのではないかと考えている。さらに、今までキャリア教育を行う中で、教材やツールの作成に苦慮していたが、キャリア・パスポートが具体的なツールの一つになり、生徒のキャリア形成に役立つのではないかと考えている。

キャリア・パスポート（案）
北海道今金高等養護学校
（生徒用）

科 氏名

高等養護学校のみなさんへ

人は、他者や社会のとのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きています。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものです。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもありますが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を積み重ねながら取り組んでいます。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものです。

このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところです。

これからのますます変化の激しい社会の中で、主体的に自らの可能性を発揮し、よりよい社会や世界と幸福な人生の創り手となっていくために、みなさんには、キャリア形成の視点から、以下の能力をさらに伸ばしていくことが求められています。

【人間関係形成・社会形成能力】

他者のいろいろな考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正しく伝えることができること。また、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ、仲間と協力して社会の役に立ち、今後の社会を積極的によりよくすることができる力

《例》

- 友達や家の人など相手の立場を考慮して、その人の考えや気持ちを受け止めようとする。
- 自分の考えや気持ちを整理し、相手が理解しやすいよう工夫して、伝えようとする。
- 人と何かをするとき、自分がどのような仕事をすればよいかを考え、分担しながら、力を合わせて行動しようとする。

- 他者の個性を理解する力 □他者に働きかける力
- コミュニケーション・スキル □チームワーク
- リーダーシップ など

【自己理解・自己管理能力】

自分が「できること」「意味を感じること」「したいこと」について、社会と相互関係を大事にしながら、今後の自分自身の可能性を含めた前向きな理解に基づき、自ら行動すると同時に、自分の感情をコントロールし、かつ、成長のために進んで学ぼうとする力

《例》

- 自分を振り返り、長所や短所を把握して、良いところを伸ばし、悪いところを克服しようとする。
- 自分がすべきことがある時に、喜怒哀楽の感情に流されることなく行動を適切にコントロールし、取り組もうとする。
- 不得意なことでも、自ら進んで、取り組もうとする。

- 自己の役割の理解 □前向きに考える力、
- 自己の動機付け □忍耐力、
- ストレスマネジメント □主体的行動 など

【課題対応能力】

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる能力

《例》

- 調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を集め、正しく、かつ、必要な情報を抜き出して活用できる。
- 何か問題が起こった時、再び同じような問題が起こらないようにするために、原因を調べ、課題を発見し、解決のための工夫ができる。
- 何かをする時、見通しをもって計画し、評価・改善を加えながら行動することができる。

- 情報の理解・選択・処理等 □本質の理解、
- 原因の追究 □課題発見 □計画立案 □実行力
- 評価・改善 など

【キャリアプランニング能力】

「働くこと」の意味を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割とのつながりを含めて「働くこと」を位置付け、いろいろな生き方に関する情報を適切に選び、活用しながら、自ら主体的に判断して自分のキャリアを組み立てる力

《例》

- 学ぶことや働くことの意味について考えたり、いろいろな働き方や生き方があることを理解したり、今、学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしている。
- 自らの将来について具体的な目標を立て、現実の社会から逃げることなく、自分の進路の実現のための具体的な方法について考えている。
- 将来の目標の実現に向けて具体的に行動を起こしたり、それを振り返ってよりよくしたりする。

- 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解
- 多様性の理解 □将来設計 □選択 □行動と改善 など

《高校生活でさらに伸ばしてほしい能力》

あなたには、授業や学校行事、部活動などでの様々な体験や学びを通して、これらの能力を自ら成長させることを意識してほしいと思います。

そして、この「キャリア・パスポート」で、高校生活を見通したり振り返ったりしながら、学びの履歴を積み重ねていくことが、今後の人生を創っていくための「道しるべ」になることを願っています。

北海道今金高等養護学校のみなさんへ

卒業までに身につけてほしい力とは

本校の校訓は、「自ら行動し 最後まで 努力する人」となっています。在学中に人間関係を形成したり、社会に参画する実践的な経験を積み重ねたり、自己探求しながら自己実現したりする中で、働く上で必要な様々な力を身につけるために努力し続ける人間になってほしい、そんな思いが校訓に込められています。卒業後、地域での生活を目指して、働く力・生活する実践的な力を身につけるために、様々なことを今金高等養護学校で学んでほしいと思っています。

段階的に様々な力を身につけるために、1年生では、「知る」をテーマに、自分を知り、仕事を知る学びをします。自分の力を踏まえて仕事の意味を理解し、職業生活に向けた基本的習慣を身につけます。

2年生では、それをもとに「見極める」をテーマに、自分が将来、長く続けられる仕事を考えます。必要な情報や、自分の考えを自ら発信する力と、他者意識をもって協力して働き、長く働ける基本的な力を身につけます。

3年生では、「実現する、決定する」をテーマに、特に自分の長所を仕事に生かす視点を持ち、他者の良いところも認める態度を学びます。学校で学んできたことを、前提及び個別実習の中で生かし、効率的、協力的でよりよい職場となるような環境づくりのために役に立つ存在となる力を身につけます。

キャリア・パスポートが様々な力を身につけるためのツールになることを願っています。

キャリア・パスポートを作成するねらい・期待すること

このキャリア・パスポートは、あなたが卒業後の就労に向けて、

- ① 自分が今までどのような成長をしてきたか？
- ② 自分の障がいはいくつか、何に困っているか？
- ③ 自分の強み、課題は何か？
- ④ これからどういうことを頑張る必要があるか？

などを整理するために作成します。つまり、「自分を振り返る（自己理解・自己内省）」ための道具であり、就いた仕事を長く続ける上で、役に立つものとなるでしょう。

生徒たちへのメッセージ

誰しも将来への夢や憧れを持っていて、夢を叶えるために努力してきたことがたくさんあるのではないのでしょうか。そして、様々な分岐点で自分自身が選択してきて現在に至っていると思います。高校受験もその一つだったと思います。高校を卒業するときには、新たな分岐点が待っています。自分の選んだ道が最良のモノになっていることを望んでいると思います。しかし、人生は、思い通りにいかないことの方が多いた方が現実です。そのときに、すぐにあきらめるのではなく、「なぜ上手くいかなかったのか」を振り返り、「これからどうしていけば良いのか」改善して行動できる習慣を身につけておくことで、社会に出ても柔軟に対応し軌道修正しながら充実した就労生活を送ることができると思います。

このキャリア・パスポートは、課題に対応する能力の向上や、自分の言動を振り返り修正していく習慣を身につけるために役立つツールになると考えています。

あなたが考えている「理想の生活」を手に入れるために、適切な情報を収集・整理・蓄積などを行い、最善の自己選択・自己決定をしながら、充実した就労生活の実現を目指して努力・工夫をし続けてほしいと思います。

北海道今金高等養護学校

学期を見通し、振り返る	年 月 日
-------------	-------

記入日 年 月 日

○今学期の間に、特に心がけて取り組もう(自分なりに努力してみよう)と思っていることをまとめよう。

(授業) 何に取り組むか	どのように取り組むか
(学校行事)	
(部活動 校外活動 家庭 資格等)	

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと

記入日 年 月 日

○今学期を振り返って、自分なりに取り組んできたことや、よかったと思うことをまとめよう。

(授業) 何に取り組んできたか	どのような点がよかったと思うか
(学校行事)	
(部活動 校外活動 家庭 資格等)	

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと

一年を見通し、振り返る	年
-------------	---

記入日 年 月 日

○1年のはじめに、自分のどんな力を伸ばしたいかを考えよう。
(表紙裏の「高校生みなさんへ」の中にある「高校生活でさらに伸ばしてほしい能力」等を参考にしてください。)

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<理由>	<理由>	<理由>	<理由>

○1年間を振り返って、一番心に残っていることをまとめよう。 記入日 年 月 日

(授業)	なにが	どうして(理由)
(行事)		
(部活等)		

○1年間を振り返って、自分自身の成長をまとめよう。

成長できたところ	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
成長したいところ				

○将来の自分自身を想像しよう。

1年後の私	どんなふうになりたいか	そのために今から何をするか
30歳の私		

()からのメッセージ	
先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと

自分史を書いて自己分析する

○自分自身の「特徴」をまとめよう。

	幼少期	小学校	中学校	高校
学習				
習い事 部活動				
人間関係				
趣味 Hobby				
夢				
共通点				

どんなときにうれしくなるか
どんなときに落ち込むか
どんなときに感情のコントロールが難しくなるか
どんなことで人とトラブルになるか
思い通りにいかなかったとき、自分のとる言動は
自分自身の性格は

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと
------------	----------------------------

これまでの自分を振り返る

○自分自身のこれまでを振り返って「足跡」をまとめよう（複数回答可）。 記入日 年 月 日

（幼少期） 0～6 歳 心に残っていること	自分自身どのような気持ちになったか
 	

○自分自身のことをまとめよう。

	場所	人（親族）	人（親族以外）	モノ
好き				
理由				
苦手				
理由				

共通点

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと
------------	----------------------------

自分のことを客観的に知る

○自分の知っている「特徴」と他人が知っている「特徴」を分類してみよう。

記入日 年 月 日

	自分は知っている	自分は気づいていない
他人は知っている	「開放の窓」(A) 自分も他人も知っている自己	「盲点の窓」(B) 自分は気づいていないが他人は知っている自己
他人は気づいていない	「秘密の窓」(C) 自分は知っているが他人は気づいていない自己	「未知の窓」(D) 誰からもまだ知られていない自己

- 自分の性格だと思う要素を下記①～⑭の項目から複数選び、その番号を紙に書き出します。
- 相手の性格だと思う要素を同じく紙に書き、その人に渡します。
全員分書き終わると、手元に自分と相手の数だけの紙が揃います。
- 自分が書いた番号と相手が書いた番号が重なっている場合、その番号を(A)に書きます。
- 相手が書いて自分が書いてない番号を(B)に書きます。
- 自分が書いて相手が書いてない番号を(C)に書きます。
- 誰も書いてない番号を(D)に書きます。
- 書き出された結果を確認し、自己分析してみましょう。

①頭が良い ②発想力がある ③段取り力がある ④向上心がある ⑤行動力がある ⑥表現が豊か ⑦話し上手
⑧聞き上手 ⑨親切 ⑩リーダー資質がある ⑪空気が読める ⑫情報通 ⑬根性がある ⑭責任感がある
⑮プライドが高い ⑯自信家 ⑰頑固 ⑱真面目 ⑲慎重

自分と他人の認識の違いを確認しよう

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと
------------	----------------------------

これまでの自分とこれからの自分

○学校での自分自身を振り返って、「足跡」をまとめよう。

記入日 年 月 日

(小学校)	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか
(中学校)		
(高校)		

○自分自身の「現在（今）」と「将来」についてまとめよう。

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
自分のよさ・強み				
成長させたいところ				
卒業後の進路				
将来、社会にどのように貢献していきたいか				
将来、どういう生き方をしていきたいか				

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと
------------	----------------------------

卒業年度を見通し、振り返る

○ 1年後の自分を想像しよう。

記入日 年 月 日

どんなふうになっていたいか（目指す進路や目標）

○ 1年後に向けて、いつ、何に取り組むかを考えよう。

4月	7月	9月	11月	1月	3月	4月
小中高を振り返るシート の作成	体育祭 見学旅行	前提実習	個別実習		卒業	



記入日 年 月 日

具体的に何に取り組むか	どのように取り組むか	進捗状況確認（7月末頃）

○ 1年間の振り返りをまとめよう。

記入日 年 月 日

何に取り組んできたか	どのような点がよかったと思うか（成長できたと思うか）

○ 卒業後の自分について、どんな自分になりたいか（将来どんな生き方をしていきたいか）を考えよう。

--

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと

社会体験・現場実習について（働くことに関して）

【事前】

記入日 年 月 日

「働くこと」についての今の考え（「働く」ということに、どのようなイメージや考えをもっているか）	
受入先	体験先選定の理由
就業体験・インターンシップを通じて、どんなことを得たいのか	
就業体験・インターンシップを通してなりたい自分のイメージ（どう成長したいのか）	

記入日 年 月 日

【事後】

就業体験・インターンシップを通じて学んだこと（気づいたこと、よかったこと、反省したことなど）
受入先から自分の将来に向けてどのようなアドバイスをもらったか
「働くこと」についての今の考え（体験を通してどのように考えが変わったか・変わらなかったか）
今、考えている自分の進路（〇〇に進学・〇〇業に就職・迷っている）とその理由

受入先からのアドバイス	
先生からのメッセージ	受入先からのアドバイス・先生からのメッセージを読んで考えたこと

☐ 体育祭 ☐ 学校祭について（学校行事等）	年
--	---

【事前】

記入日 年 月 日

〇〇で特に心がけて取り組もう（自分なりに努力してみよう）と思っていること
そう思った理由
そのために事前に準備すること

【事後】

記入日 年 月 日

自分なりに取り組めたこと、よかったと思うこと	
今回の体験・経験で最も心に残っていること	
<その理由>	
自分が成長したと思うところ	今回の体験・経験を踏まえて、今後に生かしていきたいところ

（ ）からのメッセージ	
先生からのメッセージ	メッセージを読んで気づいたこと、考えたこと

「総合的な探究の時間」（課題研究等）について	年
------------------------	---

【事前】

記入日 年 月 日

「探究」テーマ（「課題研究」テーマ）	
テーマ選定の理由	
取組を通じて特にどんな力を伸ばしたいか	<理由>

【事後】

記入日 年 月 日

探究した内容の概要（取組の流れや取組を通じて新たにわかったこと など）	
取組の過程で感じたこと・考えたこと（うまくいったことやそのときの気持ち、失敗したことやそこから学んだこと など）	
取組を通じてどんな力が伸ばせたか（成長したところ）	探究活動の結果、新たに生まれた疑問や探究テーマ等

先生からのメッセージ	メッセージを読んで気づいたこと、考えたこと
------------	-----------------------